

# できる・できる・できる

校訓：「自主・友愛・飛躍」

令和3年 8月 9日

No.22

長崎市立戸町中学校

文責 校長 大橋 功

<http://www.nagasaki-city.ed.jp/tomachi-j/>

## 長崎が最後の被爆地であるように！

戦争や被爆体験のない私たちは、76年前の出来事を記録や被爆者等の記憶を通してでしか知ることが出来ません。しかし、世界中から核兵器をなくし、いかなる戦争も起こさない。そして、許さない。命はかけがえのないものであること。苦境にあっても希望を見だし、不安や悩みを乗り越え生きぬくこと。

そのためにも私たちは決意を新に、“長崎が最後の被爆地”であるよう、みんなで力を合わせて、これからも、笑顔のあふれる平和な世界を築いて行かなくてはなりません。8月6日の広島原爆の日と8月9日の長崎原爆の日は、世界中の人々がその事を再認識し、自分にできる平和への一歩を踏み出す日でもあるのです。



## 戸町中学校平和宣言

1945年8月9日午前11時2分、1発の原子爆弾が投下され、長崎市松山町上空で炸裂しました。一瞬のうちに焼け野原となり、たくさんの尊い命とたくさんの人たちの未来が奪われました。

原爆が投下され、今もなお苦しんでいる人たちがたくさんいます。その反面、核を保有している国が数多くあります。また、依然として世界では、地域紛争やテロの脅威など「新しい戦争」にさらされている国や地域があり、現在まで平和を維持してきた国がごく少数なのが現状です。

なぜ、人間は戦争をするのでしょうか？人間同士がにくみ合って争うのは絶対にいけないことです。戦争や核兵器は多くの人の命や家族を奪います。また、生き残ったとしても心に傷は残り、あとの人生もめっちゃくちゃになってしまい、取り返しのつかない事態を招きます。

命はこの世で一番大切です。

話し合いが大切です。言葉を交わして解決することが大切です。

戦争は絶対にしてはいけません。

戦争を防ぐためには、軍縮を進めることが重要です。とくに、核兵器などの大量破壊兵器の廃絶が重要です。しかし、2017年に国連で核兵器禁止条約が採択されましたが、核保有国を中心に、多くの国が参加していません。

世界で唯一の被爆国、そして被爆地長崎に住む私たちにできることは、真実を知り、学習を深め、平和を創る人になっていくことです。そして、被爆者の方々の体験を聞き、思いを受け継ぎ、「核兵器のおそろしさ、戦争のおそろしさ、そして平和の尊さ」を未来へつなげていくことです。

今年度、「平和・核兵器・戦争」をテーマに、生徒個人がそれぞれのテーマを設定し、原爆の威力や被害の状況、さらに戦争のおそろしさを学習し、今日の「平和集会」で平和の尊さをあらためて認識しました。

戦後76年、被爆者が減り、また、戦後世代が増え、戦争や原爆について知らない人が増えています。だからこそ、私たちが原爆や平和について考える機会を大切に、過去から学び未来へつなげていかなければなりません。

原爆投下から76年目の今日8月9日に、戸町中学校の私たちは身近なところから平和な社会を築いていくために次の3つのことについて努力していくことをここに宣言します。

- お互いの意見を尊重し合い、一人一人が相手の立場になって行動します。
- 一人一人が命や平和の大切さを理解し、ともに助け合っていきます。
- 一人一人が平和について真剣に考え、発信していきます。

令和3年8月9日

長崎市立戸町中学校平和実行委員

# 過去から学び未来へつなげる

上記の表題は、今年度の「戸町中学校平和宣言」の一部を抜粋したものです。何と素晴らしい一文でしょう。



文面には、「私たちが原爆や平和について考える機会を大切に、過去から学び未来へつなげていかなければなりません。」とあります。

本日の平和集会の内容については、次号でお伝えしますが、この76年間、少しずつ、少しずつ大切に積み上げてきたものの成果が「平和」であるならば、明日に向けて、さらに、積み上げ、継承していくことこそ、私たちの役割ではないでしょうか。「戸町中学校平和宣言」からは、そのような生徒たちの平和を願う決意が伝わってきます。

## 心の種

今回のテーマは「消えない記憶を笑顔に変えて」です。

私の義母は、20代という青春時代真っ盛りに、長崎で被爆し、昨年の夏、97歳で他界しました。



亡くなる数年前から入退院を繰り返し、病気と懸命に闘いました。

しかし、聴力や視力、そして、記憶さえも徐々に薄れ、我が娘（四姉妹）の名前も薄れていました。

そういう状態にあっても、家内が「お母さん、もうすぐ原爆の日よ」と声をかけると、思い出したかのように不自由な手を胸に持っていきこうとしていました。本当ならば、真っ先に消し去りたい記憶なのかもしれませんが、「戦争」そして「原爆」とはそれほどまでにおぞましい記憶として、残り続けているのです。

少しでも家族の笑顔で記憶がいっぱいになるようにと、家内や姉たち、そして、孫たちが交代で看病に通い、笑顔を見せ励ましました。

ところが、コロナ禍の影響で、昨年の4月以降は病院までは行くことができて、病室には入れず、残念ながら最期を見とることは叶いませんでした。

しかし、義母の表情は、まるで笑顔のように穏やかだったのは、今も私たち家族の心の中にしっかりと残ってまいります。

学校だけで学ぶのではなく、ぜひ、各ご家庭でも平和について話題にして、家族でできる身近な平和への取組について話してください。家族で話すことや実践することも大切な平和教育の一つです。

# 校訓追求のための重点目標評価発表！

～ 2期（6月・7月）評価 ～

以前、学校だよりでお伝えしましたが、本校では、学校教育目標達成に向けて、様々な教育活動を実践しています。その検証方法として、全職員による評価を「校訓追求のための重点目標評価」と称して、2ヶ月に1回実施しています。評価項目は、重点目標に掲げている「校訓に沿った目指す生徒像」です。そこで、今回は2期（6月・7月）の評価を保護者のみなさまに発表いたします。

※各項目は戸町中グランドデザインをご覧ください

校訓	学年	学年平均		全体平均	
		1期	2期	1期	2期
自主	1年	2.8	2.9	2.8	2.9 (向上)
	2年	2.9	3.0		
	3年	2.6	2.7		
友愛	1年	2.9	2.9	2.9	3.0 (向上)
	2年	2.9	3.0		
	3年	2.9	2.9		
飛躍	1年	2.9	2.8	2.8	2.8 (維持)
	2年	2.9	2.8		
	3年	2.5	2.5		

※ [ 4 : よくできている      3 : だいたいできている ]  
[ 2 : あまりできていない    1 : できていない ]

「自主」では、「素直なあいさつができる生徒」「積極的に自分の役割を果たす生徒」「自信をもって課題を解決する生徒」の項目で向上が見られました。しかし、「見通しを持って計画的に動く生徒」は減少でした。全体では、0.1ポイント向上しています。



「友愛」では、「他の考えや意見を大切にする生徒」「伝えあい、高めあう生徒」の項目で、最大0.3ポイントの向上が見られました。全体では、0.1ポイントの向上です。

「飛躍」では、「地域や母校を愛する生徒」で向上したものの、「夢や希望を持ち、努力し続ける生徒」「適切に自己評価し、改善できる生徒」で、0.1ポイントの減少でした。全体では、現状維持です。

